



2 西郷どんの手水鉢
弘化三（一八四六）年、岩永三郎の設計で、石造りの美しい眼鏡橋の妹背橋が架けられました。この工事に座書役として従事したのが18歳の西郷隆盛でした。竣工までの3年間、宮内省に寄寓し、朝夕この手水鉢を使ったと言われています。



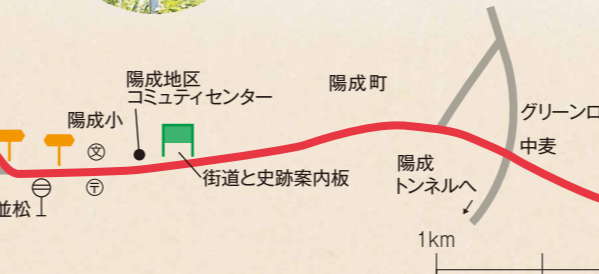
凡例

薩摩街道	—
薩摩街道(消滅道)	---
薩摩街道迂回路
県道・一般道	—
国道	—
薩摩街道の道標	●
案内板	■
史跡	☆

耳切坂
みんきさざか
整備された石畳の耳切坂。真夏でも涼しい風が吹き抜ける一筋の空間が続いています。



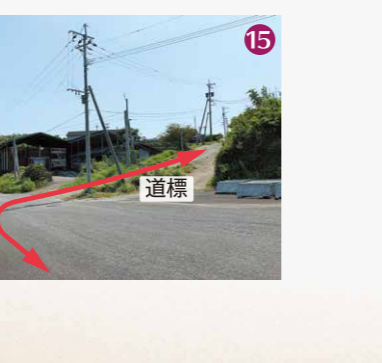
街道の案内板
(陽成町・鞆)
古道の雰囲気が多く残る西郷どんの腰掛石。下大迫の耳切坂。西郷どんの手水鉢。高来小の西郷どんの腰掛石。射場の射撃の練習場であったと伝えられるところ。この坂は街道を訪れる旅人の記念写真のスポットとして知られています。



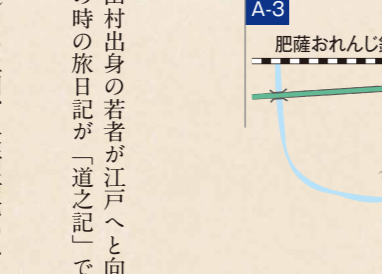
川内高城温泉
西郷隆盛が狩りの途中に何度も立ち寄ったといわれ、隆盛ゆかりのエピソードが多く残っています。



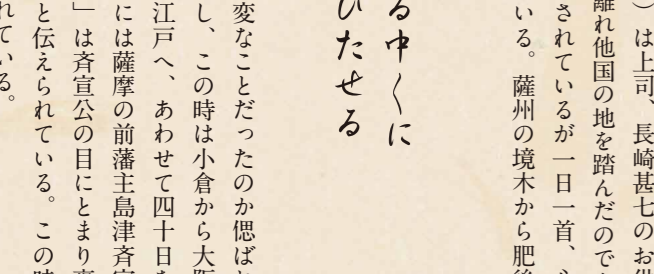
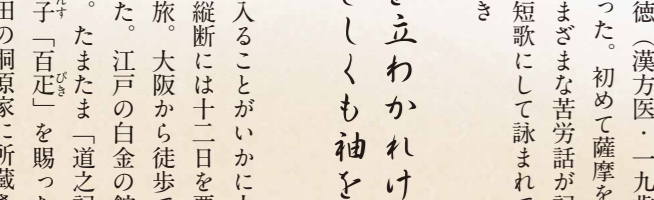
一条坂
森に分け入る一条坂は文明とは切り離された古道そのもの。落葉を踏み敷く歩みを止める静寂な世界が広がります。



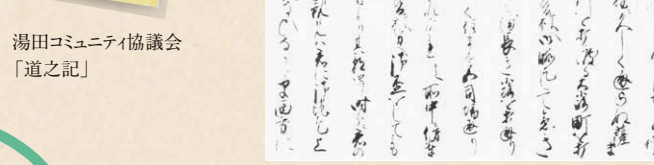
耳切坂
古道の雰囲気が多く残る西郷どんの腰掛石。下大迫の耳切坂。西郷どんの手水鉢。高来小の西郷どんの腰掛石。射場の射撃の練習場であったと伝えられるところ。この坂は街道を訪れる旅人の記念写真のスポットとして知られています。



道之記
湯田村出身の若者が江戸へと向かったその時の旅日記が「道之記」である。



道之記
湯田コミュニティ協議会「道之記」



人形岩
白滝の集落から峠に続く街道は県道がつけられてから使われなくなり現在、荒れてしまい歩行は困難です。このため、小道を伝って迂回することが多いようです。車道から白滝の集落を望む民家の下の道が薩摩街道。このあたりからは東シナ海の碧い海と「人形岩」の眺望が広がります。

